

斑点米カメムシ類の発生に注意しましょう！

7月中旬のイネ科雑草地等すくい取り調査では、斑点米カメムシ類主要種の発生量は平年並でした。種別に見ると、大型種であるホソハリカメムシは、6月下旬の雑草地等調査では発生量が平年並でしたが、7月中旬はやや多い発生となりました。アカスジカスミカメは、6月下旬調査から引き続き、やや多い発生となりました（表1）。

気温が高めに推移していることから、斑点米カメムシ類の飛翔移動が活発化し、水田への侵入増加が予想されます。越冬場所に近い中山間地はもとより、平地においても発生動向に注意してください。

水田内、畦畔及び水田周辺雑草の適正管理を徹底するとともに、1回目の薬剤散布後も斑点米カメムシ類が見られる場合は、追加散布を行いましょう（表2）。

表1 イネ科雑草地等における斑点米カメムシ類すくい取り調査結果（7月10日～12日調査）

	斑点米カメムシ類 主要種合計	主要種の内訳			
		クモヘリ カメムシ	ホソハリ カメムシ	アカヒゲホソ ミドリカスミカメ	アカスジ カスミカメ
令和5年平均値（頭）	329.2	1.2	6.5	159.1	162.4
平年値（頭）	250.9	21.3	3.7	124.3	101.5
平年比（%）	131	6	174	128	160
発生程度	平年並	少	やや多	平年並	やや多

(1)イネ科雑草地等36地点を調査 (2)頭数は成幼虫数の合計 (3)平年値は、平成25(2013)～令和4(2022)年の平均



写真1 斑点米（頂部）



写真2 斑点米（側部）



写真3 ホソハリカメムシ（左）
アカスジカスミカメ（右）



表2 水稲のカメムシ類に登録のある主な薬剤（令和5（2023）年8月2日現在）

農薬名	希釈倍数 又は使用量	使用時期	本剤の 使用回数	成分	農薬の系統	IRAC コード
ダントツ粒剤	3～4kg/10a	収穫7日前まで	3回以内	クロチアニジン	ネオニコチノイド	4A
スタークル液剤10	1000倍	収穫7日前まで	3回以内	ジノテフラン		
エクシードフロアブル	2000倍	収穫7日前まで	3回以内	スルホキサフロル	スルホキシミン	4C
トレボンEW	1000倍	収穫14日前まで	3回以内	エトフェプロックス	ピレスロイド	3A
クラブフロアブル	1000～2000倍	収穫14日前まで	2回以内	エチプロール	フェニルピラゾール	2B

○防除対策については以下の情報を参考にしてください。

令和5（2023）年7月13日発表 植物防疫ニュースNo. 5 [斑点米カメムシ類の発生動向に注意しましょう！](#)

平成25（2013）年4月発表 病害虫防除対策のポイントNo. 16 [斑点米カメムシ類の防除対策](#)

詳細は、農業環境指導センター（TEL 028-626-3086）までお問合せ下さい。

病害虫情報発表のお知らせは「農政部ツイッター（@tochigi_nousei）」、農業環境指導センターホームページ（<http://www.jpnp.ne.jp/tochigi/index.html>）でもご覧になれます。



「栃木県農薬危害防止運動」実施中（6月～8月）

農薬を使用する際は、ラベルを読み上げ、正しく使いましょう。

